

25

541

小祈禱書

正教會

020743-000-0

25-541

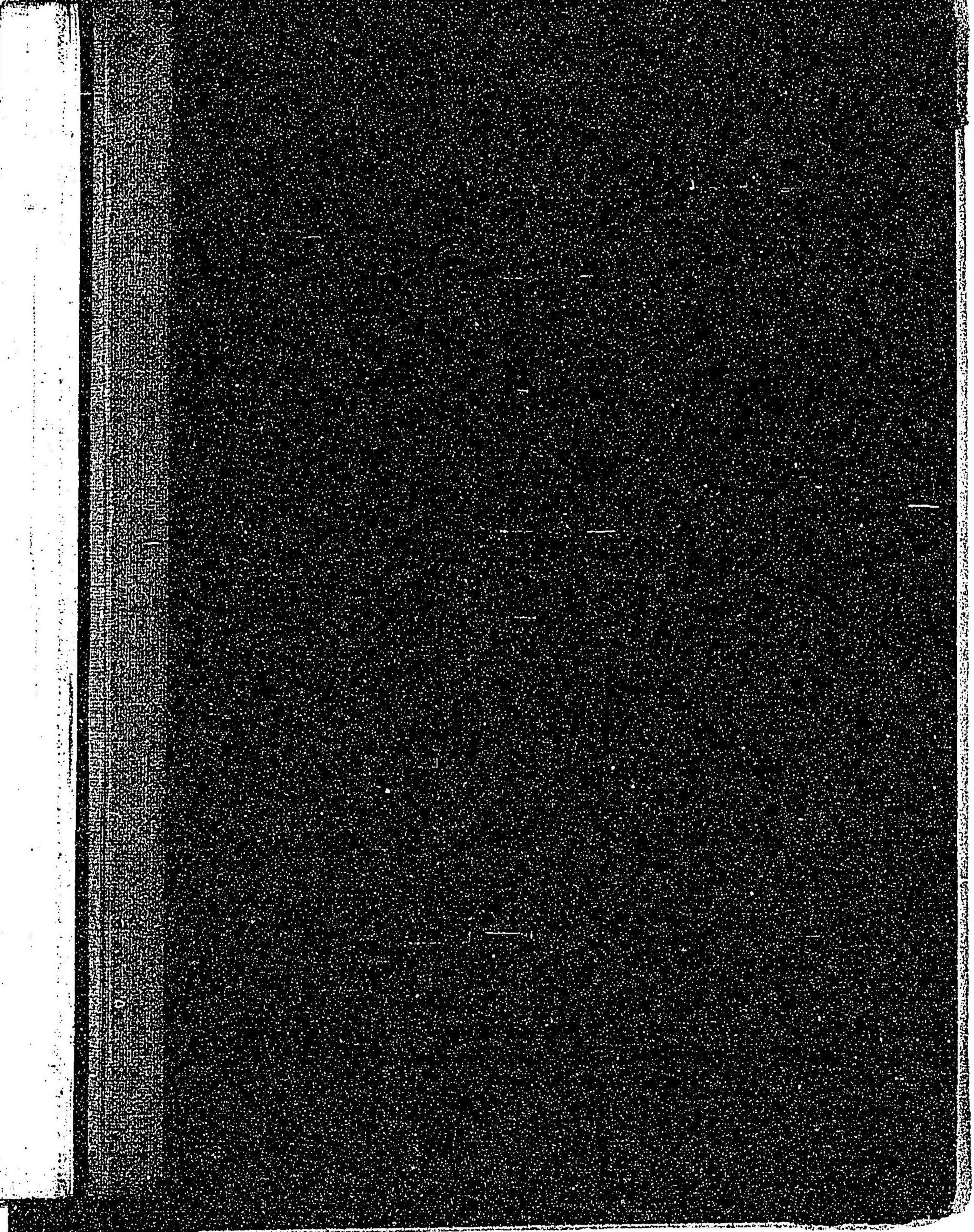
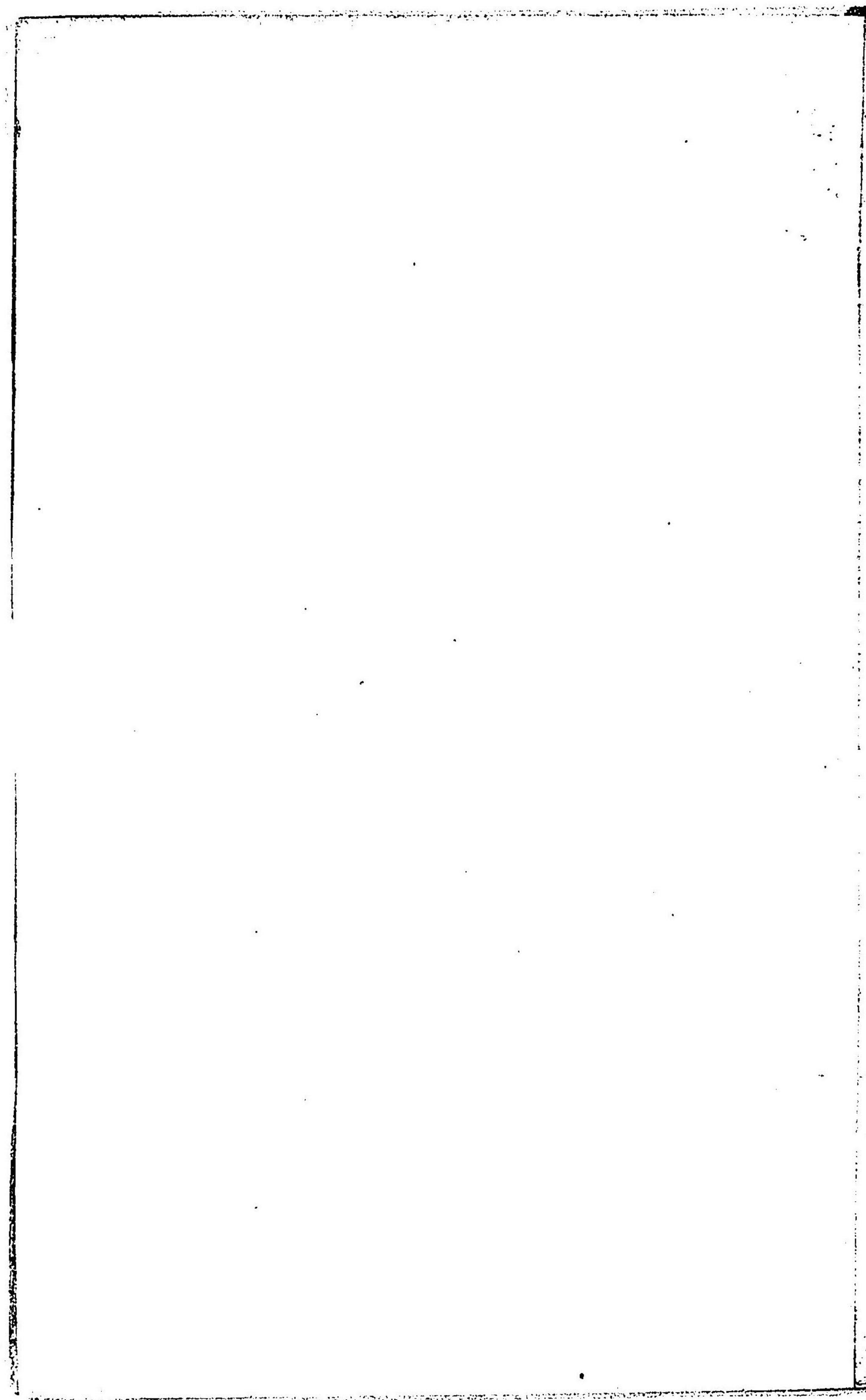
小祈禱書

正教會 / 著

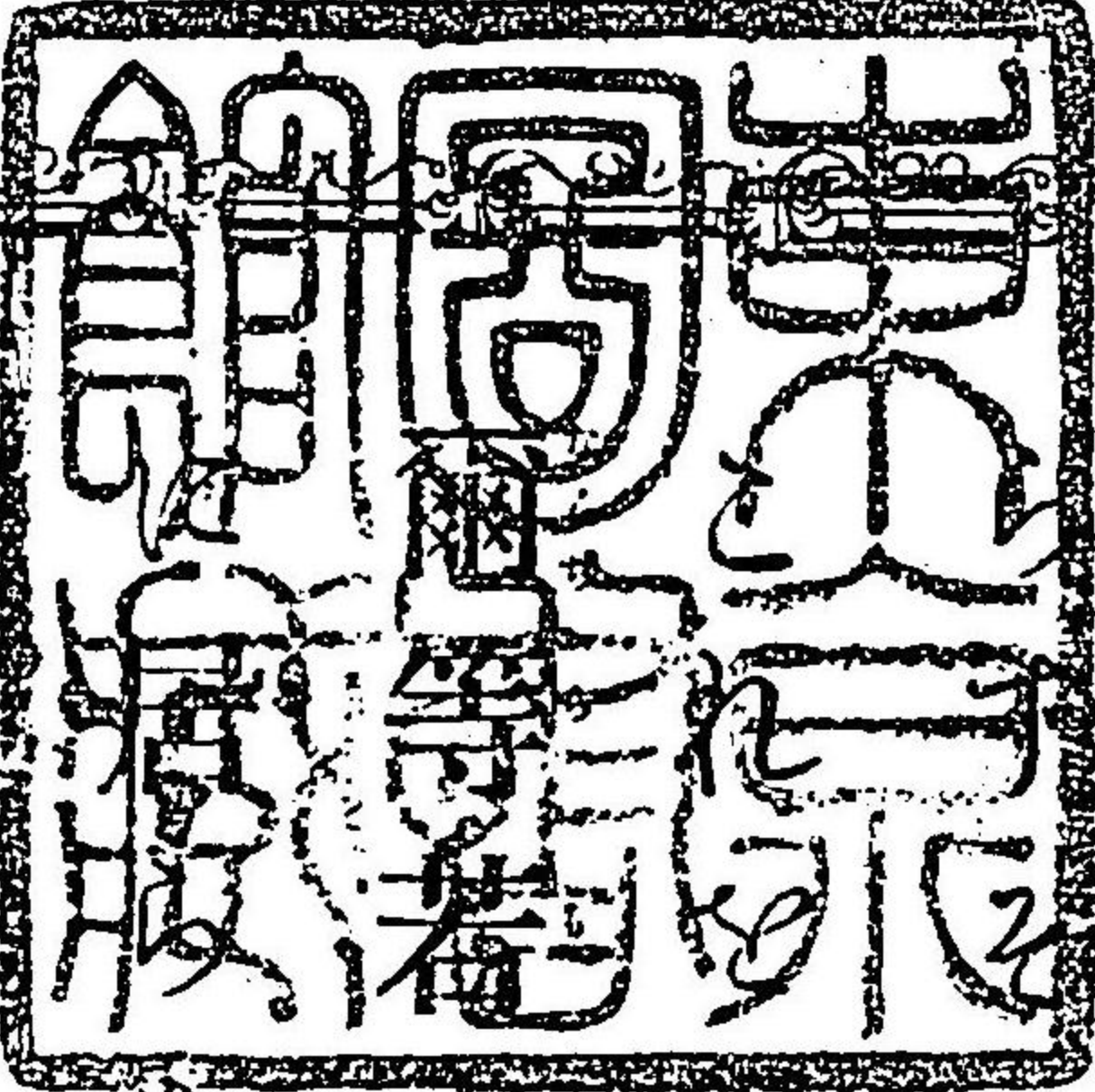
〔刊年不明〕

ABI-0563





イザヤ書第二十五章



祈禱の時には何を求むるに限

の得べきを信ぜられを必

得べし マルク十一章二十四節

我に居り我の言爾等

爾等が凡て望むとこ

ろは求めに従ふて予へらるべ

イザヤ書第十五章 七節

常に聖神に頼り諸の祈禱と冀
 願にて求めよ又恒に儆醒して
 おれを俟てよ
エフェソの書 六章十八節
 我が勧めの最も先なる者は萬
 人のために祈禱冀願懇求感謝
 すべきにあり
テモフエイ前書 二章一節

小祈禱書目録

朝の祈禱文

税吏の祈禱

聖神祝文

聖三祝文

至聖三者

主經

聖三者讚詞

祝文

二葉

全

三

全

四

五

六

來れ我等の王云々

第五十聖詠

第一祝文

第二祝文

第三祝文

第四祝文

第五祝文

第六祝文

第七祝文

七

八

十一

十二

十三

十四

全

十六

十八

第八祝文

第九祝文

第十祝文

我が名の依る所の聖人を

呼祈るの文

至聖生神女讚詞

十字架讚詞

記憶文

死者の記憶文

廿一

廿四

廿六

廿七

廿八

全

廿九

卅五

目録

祈禱の収結

卅七

諸罪の痛告

卅八

晝の祈禱文

業と始る前の祈禱

四十一

業と終る後の祈禱

四十二

稽古前の祝文

全

稽古後の祝文

四十三

食前の祝文

四十四

食後の祝文

四十五

暮の祈禱文

聖神祝文

四十八

聖三祝文

全

至聖三者

四十九

主經

全

讚詞

五十

第一祝文

五十二

第二祝文

五十三

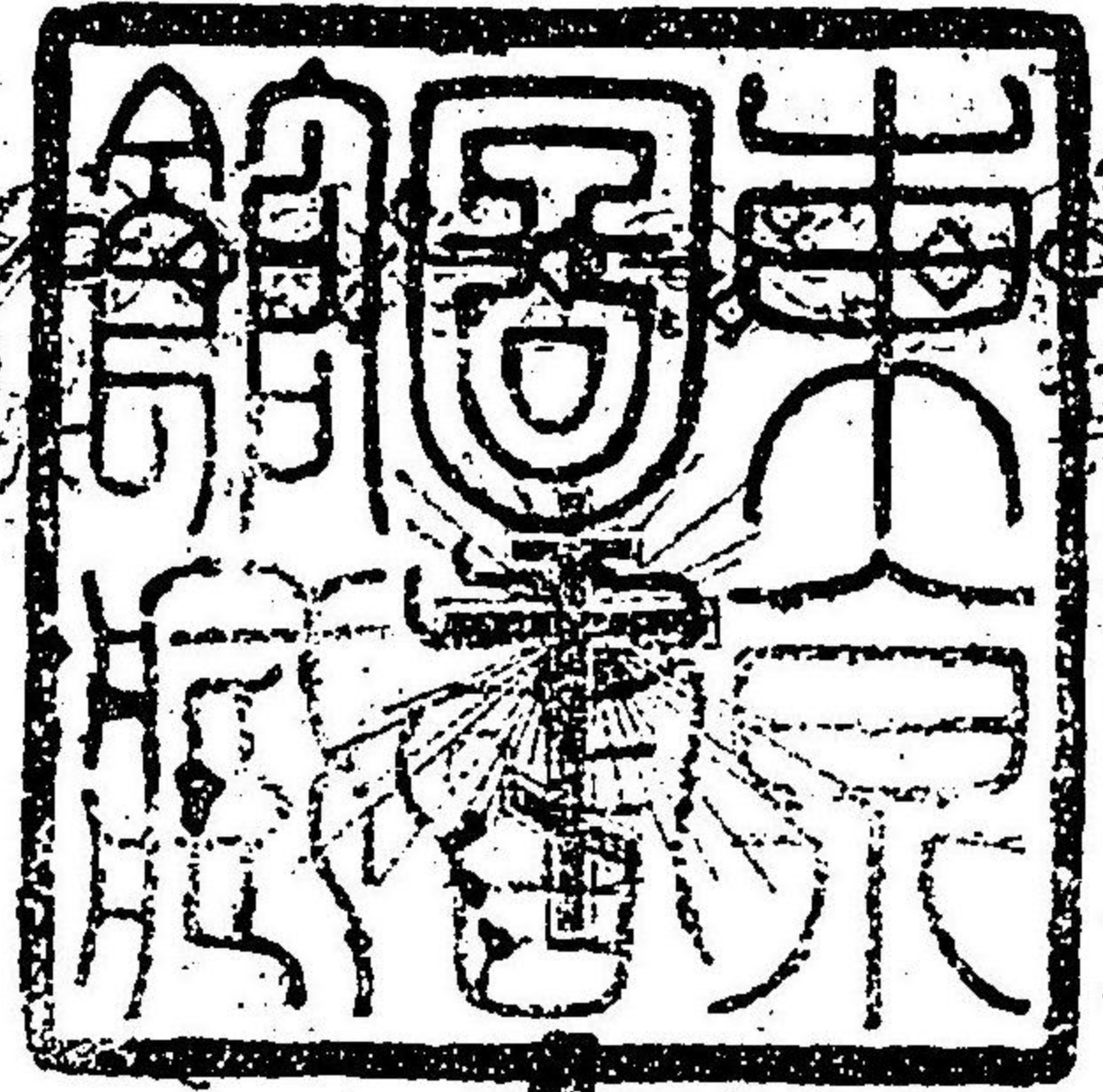
第三祝文

五十五

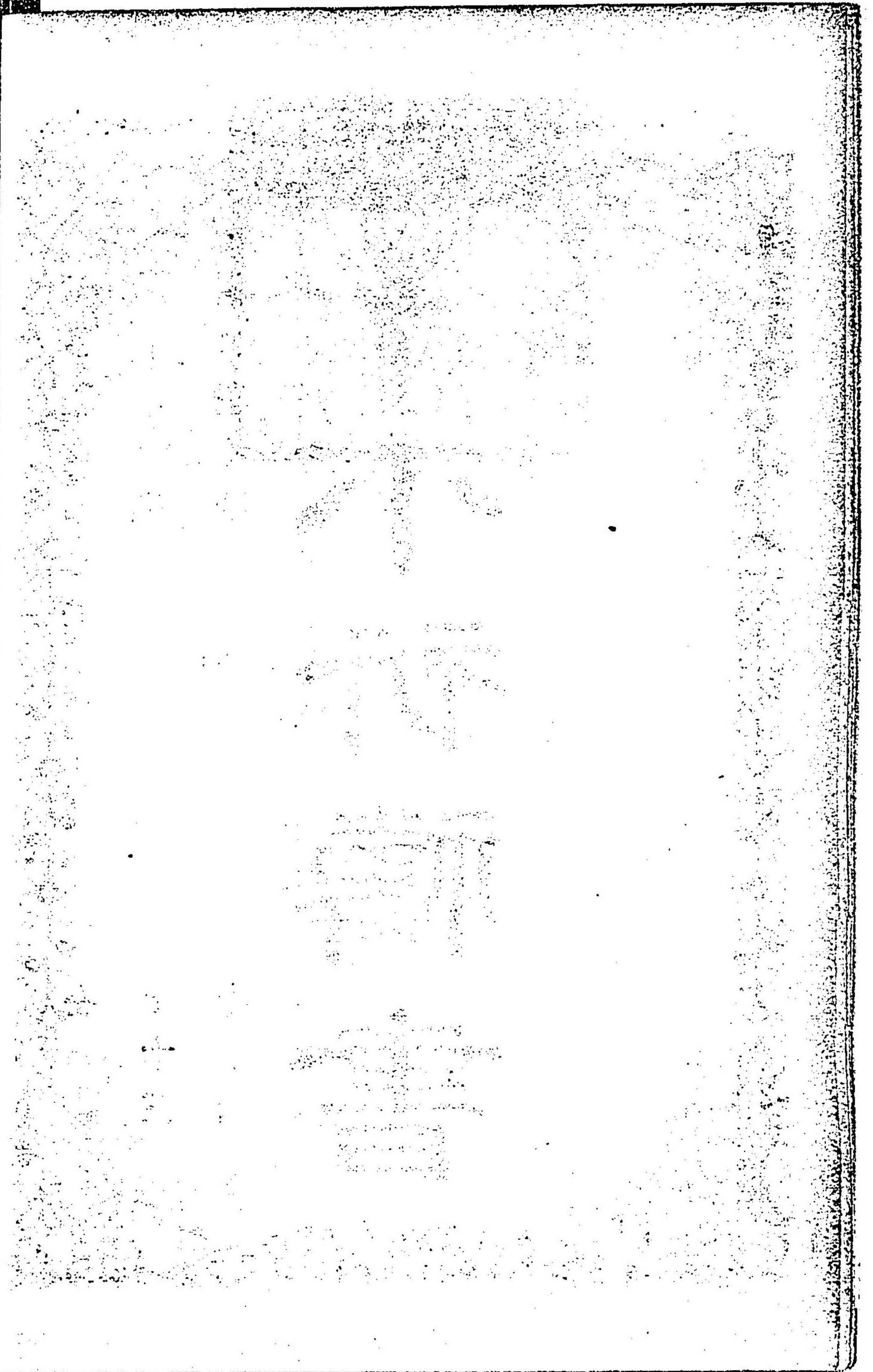
目録

第四	祝文	五十八
第五	祝文	六十二
第六	祝文	全
第七	祝文	六十三
第八	祝文	六十七
第九	祝文	六十九
第十	祝文	全
生神女小讚訶		七十
聖イオアンニキイの祝文		七十二

常お福にして云々	全
獨誦の祈禱	七十三
榻に就く時の祈禱	七十六
眠お就かんとする時の祈禱	七十八



小
祈
禱
書



朝の祈禱文

喜び興き諸業に先ちて見ざる所なき神の前に
己を思ひ敬みて立ち己れに十字架を畫きて誦
ふべし
父と子と聖神の名に依る「アミン」
之を頃くして雨が感覺の鎮り雨が思の地上を
離るゝを俟ち然る後心を用ひて徐かに左の祈
禱を誦まべし

朝の祈禱文

税吏の祈禱

神や我れ罪人を憐み給へ

司祭あらば誦して曰く

我等の神の崇讃らる今も何時も世々に「アミン」

司祭をげれば左の如し

主イエススハリストス神の子や爾が至淨の母

と諸聖人の祈禱に因て我等を憐み給へ「アミン」

我等の神や光榮の爾に歸す光榮は爾に歸す

天の王慰る者や眞實の神在らざる所なき者満

たざる所なき者や萬善の寶藏なる者生命を賜

ふの主や來て我等の中に居り我等と諸乃穢よ

り潔くせよ至善者や我等の靈を救ひ給へ

聖なる神聖なる勇毅聖なる常生の者や我等を

憐めよ三次

光榮の父と子と聖神に歸を今も何時も世々に

「アミン」

至聖三者や我等と憐めよ主や我等の罪を潔く

せよ主宰や我等の愆を赦るせ聖なる者や臨て

我等の病を癒へ給へ悉く爾の名に因る
主 憐めよ 三次

光榮の父と子と聖神に歸せ今も何時も世々に
「アミン」

天に在る我等の父や願の爾の名の聖とせられ
爾の國の來り爾の旨の天に行る、が如く地に
も行のれん我の日用の糧を今日我等に與へ給
へ我等に債ある者を我等免すの如く我等の債
を免へ給へ我等を誘に導かば猶ほ我等を凶惡

より救ひ給へ

蓋し國と權能と光榮の爾お世々に歸す「アミン」

聖三者讃詞

至善者や我等寤興きて爾に伏拜す全能者や神
使の歌と以て爾に呼ぶ聖々々なる哉神や生神
女に因て我等を憐めよ
光榮の父と子と聖神お歸す
主や爾の我を覺て榻よを起せり我が智慧と
心と照し我が口を開き爾聖三者を讚め歌ハせ

朝の祈禱文

給へ聖々々々なる哉神や生神女に因て我等を憐
めよ
今も何時も世々「アミン」
審判者俄か来らる人々の行の顯はれん故に
我等夜半に畏れて呼ぶ聖々々々なる哉神や生神
女に因て我等と憐めよ
主憐めよ 十二次

祝文

聖三者や我寤興さて爾に感謝す蓋し爾の大を

る仁慈と寛忍に依り我れ情りて罪ある者を怒
らき並に我を我が悪と共に亡とせ乃ち常の仁
愛を顯はし我が無心は寢るを興して朝の祈禱
を奉り爾の權能を讚榮せしめ給へばなり今も
我が靈の目を照し我が口を開きて爾の言と習
ひ爾の誠を悟り爾の旨を行ひ中心に承け認め
て爾を歌ひ爾父と子と聖神の至聖なる名と讚
揚せしめ給へ今も何時も世々に「アミン」
來れ我等の王神に叩拜せん

朝の祈禱文

來れハリス上ス我等の王神カミ叩拜ヒツク俯伏フツせん
來れハリス上ス我等の王ウと神カミの前に叩拜ヒツク俯伏フツせん

第五十聖詠

神カミや爾なんぢ乃大なる憐あはれに因よて我われを憐あはれみ爾なんぢの惠めぐみの多おほき
に因よて我われの不法ひよと抹けと給たまへ屢しばしば我われと我われが不法ひよ
より洗あらひ我われと我われの罪つみより清きよめ給たまへ蓋けだし我われの我われ
が不法ひよを知る我われの罪つみは常に我われが前まへに在あり我われの
爾なんぢ獨ひとり爾なんぢの罪つみを犯おかし惡あくと爾なんぢの目めの前まへに行おこへり爾なんぢ

の爾なんぢの審斷しんだんの義ぎあてて爾なんぢの裁判さいばんに公おほなり夫それ
我われの不法ひよに於おて妊はらまれ我われの母ははの罪つみあ於おて我われを
生なめり夫それ爾なんぢの心こころに眞實しんじつのあると愛あいし我われの衷うち
に於おて智ち慧ゑと我われに顯あらせり「イソプ」を以もつて我われに
洗あらけよ然しかせば我われれ潔けがれくならん我われを滌あらへよ然しかせば
我われれ雪ゆきより白しろくならん我われに喜よろこぶと樂たのむと聞きか
と給たまへよ然しかせば爾なんぢに折おれと骨ほねの欣よろこばん爾なんぢの顔かほ
を我われが罪つみより避さげ我われが盡こくくの不法ひよを抹けと給たまへ
神カミや清い潔けき心こころを我われれに造つくり正ただ直ちき靈たまを我われの衷うち

に改め給へ我を爾の顔より逐ふこと勿れ爾の
 聖神を我より取上るよと勿れ爾の救ひの喜を
 我れに還し主宰たるの神を以て我と固め給へ
 我れ不法の者よ爾の道を教へん不虔の者の爾
 に歸らんとす神や我が救ひの神や我を血より
 救ひ給へ然せば我が舌の爾の義を讚揚けん主
 や我の唇を啓げよ然せば我が口ハ爾の讚美を
 揚げんとす蓋し爾の祭を欲せざ欲すれば我れ
 之を献らん爾の燔祭を喜ばば神に喜ばるよの

祭ハ痛悔の靈なり痛悔にて謙遜なるの心ハ神
 や爾輕じ給へば主や爾の恵に因て恩をシオン
 に垂れイエルサリムの城垣を建て給へ其の時
 に爾義の祭献物と燔祭を喜び饗げん其の時に
 人々爾の祭壇に憤と奠へんとす
 第一祝文 聖大カサリイの原文
 神や我れ罪人を浄め給へ我れ未だ善を爾の前
 に爲さざればなり尚ほ我を凶悪より救ひ給へ
 願は爾の旨は我の中に在り我れ罪を獲せして

我が當らざる口を開き爾父と子と聖神の聖なる名を讃揚せん今も何時も世々に「アミン」

第二祝文 上に同じ

救世主や我れ寤め興きて夜半の歌を爾に奉り伏し拜て爾に籲ぶ甘ぶて釘うたれし者や罪の死に寝るを我れに許す勿れ猶ほ我を恵みて我れ情りに偃す者を速に起し爾の前に立て祈禱するの際お助けよハリストス神や夜の眠の後

第三祝文 上に同じ

人を愛する主宰や我れ覺め起きて爾に趨り附き爾の仁慈に因て今爾が命せしことを行へんとす爾に祈る何の時何の事も我を扶けよ我れと凡そ斯の世の悪事と悪魔の謀より脱し我を救て爾が永遠の國に入れ給へ蓋し爾は我を造り我れに萬善を備へ與ふるの主にして我が頼み盡く爾お在れをなり我れ光榮を爾に歸す今も何時も世々に「アミン」

第四 祝文 上に同じ

主や爾ハ多の慈と廣き恵を以て我れ爾の僕(婢)
 お過去りし夜の時と惡敵お惱まされきて度
 らせ給へり主宰萬物の造者や爾自ら我れに真
 の光お照されたる心よて爾の旨を行ハしめ給
 へ今も何時も世々「アミン」

第五 祝文

主全能者天軍と諸の肉身の神や高し居り卑に
 臨み心腹を悟り人の密事を預め知り始なくと

て常に存するの光變りなく影の移もなき者や
 死せざるの王や我等が今爾が恵の廣きを恃み
 我が汚れたる口と以て爾に献るの祈禱を受け
 我等が行と言と思ひて知ると知らざして犯せ
 し諸の罪と赦し我等を肉身と靈魂の諸の汚れ
 よを淨め我等に醒めたる心と慎みの思を以て
 此の生命の夜と度り爾が獨生の子我が主神救
 者イエススハリストス乃光り輝くの日乃ち萬
 有の審判者各人の行に應おて報ゆるが爲め

光榮を顯して來らん日の臨むと俟ち我等が偃
 と情らぎ乃ち寤め興きて務に備ふるを認めら
 れ喜と彼れが光榮の妙なる宮と彼の祝ふ者の
 斷えざる聲及び爾が顔の言ひ尽されぬ美善を
 見る者の言ひ尽されぬ慰の處に共ふ入らとめ
 給へ蓋と爾の萬有を照と且つ聖にするの眞の
 光なり總の造物の爾を世々に讃歌ふ「アミン」
 第六祝文
 至上の神慈憐の主や我等爾を讃揚す爾の常に

我等に廣大にして測り難く光榮よして驚くべ
 き數へ盡されぬ事を行ひ更ふ我等に眠を賜ふ
 て我が弱さを息まとめ我が疲れ易に身體の苦
 勞を弛め給ひしによる我等爾に感謝す蓋し我
 等を我が悪と與に亡ほさむ乃ち常の仁愛と顯
 りと我が無心に寢ると興て爾の權能を讚榮
 せとめ給へばなり今猶爾の測り難き仁慈に祈
 る我が心と目と照と我が智慧を情りの眠よを
 起し我が口を開きて爾の讚美を満たし我等に

絶^{たへ}ぞ爾^{なんぢ}を歌^{うた}ひ爾^{なんぢ}事^{こと}毎^{ごと}に萬^{ばん}有^{いう}より讚^{まん}榮^{えい}せらるゝ
 の神^{かみ}無^む限^{げん}の父^{ちち}爾^{なんぢ}の獨^{ひと}生^{せい}の子^こ及^{およ}び至^し聖^{せい}至^し仁^{にん}生^{いのち}命^{めい}
 を施^ほす爾^{なんぢ}の神^{かみ}と讚^{まん}揚^{やう}せしめ給^{たま}へ今^{いま}も何^い時^じも世^よ
 々に「アミン」

第七祝文

至聖生神女に奉る夜半の歌

女^{むすめ}宰^{さい}や我^{わが}れ爾^{なんぢ}の恩^{おん}寵^{ちゆう}と讚^{ほめ}歌^{うた}ふて爾^{なんぢ}に祈^{いの}る此^こ乃^{なり}
 恩^{おん}寵^{ちゆう}を我^{わが}の智^ち識^{しき}よ垂^たれ給^{たま}へ我^{わが}れを導^{みち}きて正^{ただ}く
 ハリストス^{ハリストス}の誠^{まこと}の道^{みち}を履^ふましめ給^{たま}へ我^{わが}の悶^{もだ}の眠^{ねむり}
 と覺^さいで讚^{ほめ}歌^{うた}と奉^{たてまつ}む給^{たま}へ神^{かみ}の嫁^{よめ}や爾^{なんぢ}の祈^{いの}

禱^{いのち}を以^{もつ}て罪^{つみ}惡^{あく}の縁^{ゆかり}に縛^{しば}らるゝ者^{もの}を釋^{はな}き給^{たま}へ晝^{ひる}
 夜^よ我^{わが}れを守^{まも}りて我^{わが}れと攻^{せま}る敵^{てき}より救^{すく}ひ給^{たま}へ生^{いのち}命^{めい}
 と賜^{たま}ふ神^{かみ}を生^うむ者^{もの}や我^{わが}れ愆^{とが}に殺^{ころ}されたる者^{もの}
 を活^いし給^{たま}へ暮^くれざる光^{ひかり}を生^うむ者^{もの}や我^{わが}れ瞽^{かむ}とな
 りし靈^{たましひ}を明^あかち給^{たま}へ嗚^な呼^こ妙^たなる主^{しゆ}宰^{さい}の宮^{みや}や我^{わが}
 れを聖^{せい}神^{かみ}の家^{いへ}となし給^{たま}へ醫^い師^しを生^うむ者^{もの}や我^{わが}れ
 靈^{たましひ}の多^た年^{ねん}の煩^{わづら}ひを愈^いやち給^{たま}へ世^よの風^{かぜ}濤^{たう}に漾^{たぎ}り
 さるゝ我^{わが}れを痛^{いた}悔^{くわい}の路^{みち}に向^{むか}はせ給^{たま}へ我^{わが}れを永^{とこ}
 遠^{えん}の火^ひと毒^{どく}蟲^{むし}と地^ち獄^{ごく}より救^{すく}ひ多^たくの罪^{つみ}と犯^{おか}せし

我れと悪魔の喜とならしむる勿れ至て玷なき
 者や重なる罪に古びと我れを新なる者となし
 給へ我れを諸の苦みの外に脱と萬有の主宰に
 憐みを垂れしめて我れに諸聖人と共に天の樂
 を得せしめ給へ至聖なる童貞女や爾が當らざ
 る僕(婢)の聲を聞き給へ至淨の者や我れは涙の
 流れを賜ふて我が靈の穢れを清め給へ我れ常
 に中心より歎息を爾に奉る女宰や思ひを垂れ
 給へ我が禱の務を受けて之と仁慈なる神お捧

け給へ神の使に勝れる者や我れを斯の世の亂
 り勝つ者となし給へ光と放てる天の幕や我が
 衷に聖神の恩寵を照し給へ全く玷なき者や我
 れ汚れ穢れと手を揚げ口を開きて爾を崇め讚
 む務てハリストスに祈り靈を壞るの誘より我
 を救ひ給へ蓋と尊敬叩拜のハリストスに歸す
 今も何時も世々に「アミン」

第八祝文 吾主 イイ スス ハリス トス に 捧ぐ

至慈至仁なる吾が神主 イイ スス ハリス トス や

爾は多の愛を以て萬民を救ふが爲に降りて人
 體と取り給へり救世主や我れ猶ほ祈る恩寵に
 依て我を救ひ給へ蓋と行ひに依て我を救はゞ
 恩寵と錫に非ぞ當然の事なるのみ嗚呼慈の深
 き憐の言ひ尽されぬ吾がハリストスや爾言へ
 り我れを信する者の生て永く死を見ざらん若
 と爾に於るの信ハ能く望を失ふ者を救ひ視
 よ我れの信を我を救ひ給へ爾ハ我れの神と造
 者なればなり願ハ我の信を以て行ひに代へん

吾が神や敢て我れを義とするの行を求ふ勿れ
 願ハ彼の信ハ萬事の缺るを補はん彼れは對へ
 彼れは我れを義とし彼れハ我れを爾が永遠の光
 榮に與る者となさん神の言や願ハ「サタナ」に我
 を擲にし我と爾の手爾の牢より奪ふて誇を得
 ざらとめよ乃ち我が欲するも我れを救ひ給へ
 欲せざるもハリストス吾の救主や急ぎ急げよ
 我れ殆んど亡びんとす我れ母の胎内に居る時よ
 り爾ハ我れの神なればなり主や今我れに爾を

愛すること我が前に罪と愛せしが如く又情り
 無くして慫ふ爾に事ふること前に譎りある「サ
 マナ」に事へしが如くならしめ給へ願くハ我れ
 存命の日恒に爾主吾が神イイススハリストス
 に勤めん今も何時も世々に「アミシ」

第九祝文 人の生命を守護するの神使に捧ぐ

聖神使我が廢れと靈と我が慾に染みと生命に
 附添ふ者や我れ罪人を棄る勿れ我が慎なきを
 以て我れに離るゝ勿れ狡猾の惡魔は此の死す

べき體の慾に乗せて我を制するの際を與ふる
 勿れ我が便なくして弱りたる手を堅固にし我
 を救ひの途に導き給へ嗚呼聖なる神の使我が
 廢られと靈と體を護り覆ふ者や凡る我が存命
 の日に於て爾に犯せし所を盡く救と給へ若し
 今過去りと夜に於て罪に陥りしととあれば此
 日お於て我を覆ひ給へ我を仇の諸の誘より守
 り我に罪を以て神の怒を招くことなからしめ
 給へ我が爲ふ主に禱りて我が彼を畏るゝの心

を固め我が其の仁慈を受るに勝るの僕(婢)たる
を顯さしめ給へ「アミン」

第十禱文 至聖生神女小捧ぐ

至聖なる吾が女宰生神女や爾の聖にして全き
力ある祈禱を以て我れ爾の賤しき當らざる僕
(婢)より倦み忘れ無智情りを遠け及び我が廢れ
し心と我が昏まされし智識より都ての汚れと
詐と誹の念を遠け給へ並に我が慾の焰を滅し
給へ我れ貧して廢れたる者なればなり我を多

の邪なる記念と志より離し都の惡事より我を
救ひ給へ蓋し爾は萬世に尊はれ爾の至尊なる
名は世々に崇讃めらる「アミン」

若し忙くして早く爾の業に就かざると得ざれ
ば定めたる悉の禱文を急ぎ乍ら心と專にせ
して讀まんより寧ろ數端に氣を懸け心を用ひ
て祈む可

我が名の依る祈の聖人を呼祈るの文

聖にして神に喜ばる(某)や我が爲に神に祈り

給へ我熱心にて爾速かに助る者と我が靈の
爲に禱る者に趨り附けをなり

至聖生神女讚歌

生神童貞女や慶べよ恩寵に満たさるマリア
や主の爾と偕にす爾の女の中にて讚美たり爾
の胎の果も讚美たり爾の我等の靈を救ふの主
を生めばなり

十字架讚詞

皇帝と生國の爲に願る

主や爾の民を救ひ爾の業に福を降せ吾皇帝

睦仁に敵に勝たしめ爾の十字架おて爾の住所

と護り給へ

爾の神父爾親類教師首長恩人知己病者
愁人等の壯健と終暇の爲祈を献けよ若し能
くすべくんば左の記憶文を讀めよ

記憶文

主イイススハリストス我等の神や爾が永遠よ
りの憐みと廣き恵を記憶し給へ蓋し爾ハ之に
因て爾を正しく信ぎる者の救の爲に人體を取り

十字架と死を忍び受け又死より復活と天に升り
 神父の右に坐し心を全くして爾を呼ぶ者の
 賤しき祈禱を顧み給へばなり爾の耳を傾けて
 我れ爾の堪ざる僕(婢)の爾の衆人の爲に靈の香
 として爾に奉る賤き祈禱を聴き給へ第一よ
 爾の尊に血にて得し所の聖公使徒の教會を記
 憶して之を固め之を強くし之を廣め之を増し
 之を平安にし之と世々に地獄の門に破られざ
 る者として守り給へ諸會の分れを治め異邦の

惑を解き異端の仇を速に破り之を爾の聖神の
 力にて亡し給へ 阿彌陀佛 一次
 主や吾の大皇帝 睦仁吾の大皇后 美子吾の
 皇太子皇族及び諸大臣諸將校悉の官員官軍を
 憐みて救ひ給へ彼等の權を護りて彼等を平安
 よし彼等の足下に諸の仇敵を征服せしめ彼等に
 爾の正教會と爾の衆人を愛し能く之を慮らし
 め給へ我等にも彼等の平和および正教と敬虔
 の諸徳を以て穩にして亂れざる生命を度らせ

給へ叩拜一次

主や爾が言ある羊の群を牧するが爲に立て給
 ひと至聖なる正教會を治るの會院至聖なる全
 世界の總主教聖せられと正教の府主教大主教
 主教司祭補祭及ひ總ての教會の役者を憐み救
 ひ彼等の祈禱お依り我れ罪人をも憐みて救ひ
 給へ叩拜一次

主や我が神父(某)を憐み救ひ其の聖なる祈禱に
 因て我が諸の罪を救と給へ叩拜一次

主や我が父母(某)兄弟姉妹我の肉身の親類我が
 族の諸の縁者親友を憐み救ひ彼等に爾の今世
 來世の福を與へ給へ叩拜一次

主や老し者幼き者貧しき者孤子寡婦病ある者
 憂ある者困難なる者擄にせられし者獄にある
 者流されし者特に異邦人背教者異端者より爾
 と正教の爲に窘逐せらるゝ爾の僕婢を憐みて
 救ひ給へ願は之を記憶と之を顧み之と固め之
 と慰め速に爾の力を以て之を解き之を自由に

主よ此の世を去りて正教の諸王至聖なる正教
 の總主教聖せられし正教の府主教大主教主教
 司祭補祭及び悉の教會の役者又修道を以て爾
 に勤めし者を記憶して諸聖人と共に爾が永遠
 の住所に安んせしめ給へ 耶穌 一次
 主や眠りし爾の僕婢我が父母(某)及び我が悉の
 主や我を怨み我を惱まし我を苦る者を憐み救
 ひ彼等に我れ罪人の爲に亡ることなからしめ
 給へ 耶穌 一次
 主や未だ爾を知らざる異邦人又正教に背き靈
 を亡すの異端よ味まさるよ者と爾が明智の光
 にて照し之を爾の聖公使徒の教會に合し給へ

死者の記憶文

主よ此の世を去りて正教の諸王至聖なる正教
 の總主教聖せられし正教の府主教大主教主教
 司祭補祭及び悉の教會の役者又修道を以て爾
 に勤めし者を記憶して諸聖人と共に爾が永遠
 の住所に安んせしめ給へ 耶穌 一次
 主や眠りし爾の僕婢我が父母(某)及び我が悉の

肉體の親族の靈を記憶して彼等の自由に依る
 自由に依らざるの諸罪を赦し彼等に天國と爾
 の永福に與ふよとと爾の福なる永き生命の樂
 を與へ給へ
 主や凡る復活と永生の望を懷て眠りし我が諸
 父兄弟姉妹及び此處と諸方に葬られたる正教
 の「ハリストア」等々を記憶して爾の諸聖人と
 共に爾が顔の光の輝く所に住はせ並に我等を
 憐み給へ爾の仁慈にして人を愛するの主なれ

「パナリ」アミン
 主や信と復活の望を懷て過去を去り我が悉くの
 諸父兄弟姉妹に諸罪の赦しを與へて彼等に永
 遠の記憶をなし給へ

祈禱の要結

常に福にして全く玷なき生神女
 爾を福なりと稱ふるに眞に當れりヘル
 より尊くセラフイムに並びなく榮え貞操を壞ら
 ぎして神言を生じ實の生神女たる爾を崇讃む

光榮を父と子と聖神に歸す今も何時も世々に
「アミン」

主 憐れめよ 三次

主 イイススハリストス神の子や爾が至淨の母
と我が克肖捧神なる神父と諸聖人の祈禱に因
て我れ罪人を救ひ給へ「アミン」

諸罪の痛告 毎日朝の祈禱も併せ或は他時

我爾主吾が神と造物主聖三位にて唯一なる
者讚揚叩拜せらるゝ父と子と聖神の前に我が

存命の日毎時毎に行と言と思にて視と聽と臭
と味と觸るゝおと我が靈と體の総ての感覺
にて行ひと我が盡くの罪爾吾が神と造物主の
怒に觸れ又我が隣を侵せし所の者を痛告す我
れ深く之を憂ひて己れを爾吾が神の前に罪人
となし之を改るの望を懐けり唯主吾が神や我
れ涙を垂れ謙りて爾に祈る願くの我を佑け給
へ過去りし我が罪の爾の憐れを以て之を赦し我
れを是より解き給へ爾の仁慈にて人と愛す

るの主しゆなればなり

晝ひるの祈こ禱らう文ぶん

業わざを始はじめる前まへの祈こ禱らう文ぶん

主しゆイイススハリストス爾なんぢが無な原げんの父ちちの獨ひとり生せいの
子こや爾なんぢは至し淨じやうの口くちにて曰いへり我われなくんを能よく
爲なすなと主しゆや吾わがが主しゆや我われの信しんを以もつて爾なんぢの言ことば
を心こころに懷いだき爾なんぢの仁じん慈じを拜あがみて禱いのる我われれ罪とが人ひとが始はじ
る所ところの業わざを佑たすけて之これを遂とげさせ給たまへ父ちちと子こと
聖せい神しんの名なに依よりてなり「アミン」

業を終る後の祈禱

萬福を賜ふ吾がハリストスや爾ら感謝す願ひ
 恒よ我が靈に喜と樂を満て、我を救ひ給へ爾
 の獨大仁慈の主なれをなり
 稽古前の祝文
 智慧を賜ふの教師明悟を與るの主宰智識の開
 けざる者の教導者能力の乏しき者の守護者や
 我が心を誨て之を固め給へ父の言や我に言と
 與へ給へ蓋し我れ口を閉ぢて爾に呼ぶ仁

慈なる者や我罪人を憐み給へ

或の

至善の主や爾が聖神の恩寵を遣し我等に靈の
 力を賜ふて之を固め給へ我等が授けらるゝの
 教に心を用ひ益生長して爾吾が造物主の光榮
 吾が親の慰み教會と生國の利益となるを得せ
 しめ給へ

稽古後の祝文

造物主や爾の恩寵を我等に賜ふて學業に心を

用ひさせ給ひしを爾に感謝す我等の首長父母
教師等我等を導きて善を知らしむる者に福を
降し及び我等に此の學業を繼ぐが爲に能力を
與へ給へ

食前の祝文

天に在す我等の父や云々

或

主や衆人の目へ爾を望む爾の時に隨て彼等に
糧を賜ふ爾の豊なる手を開きて諸の生る者を

爾の恵に飽かしむ

食後の祝文

ハリストス吾が神を爾が地上の福を我等に飽
かしめ給ひしを爾に感謝す求む爾の天國をも
我等に得せ給へ

或

讃揚せらるゝの神我等を幼死より憐み養ひ凡
ろ生ける者に糧を賜ふ者や我等の心を喜と樂
に満て我等が恒に諸の事に乏らざして吾主

イイススハリストスに因り諸の善事を行ふに
 足るものとならしめ給へ蓋し光榮權柄尊敬の
 爾と爾の獨一子と聖神とに世々に歸す「アミン」
 或
 主や爾を讃揚す聖なる者や爾を讃揚す王や爾
 を讃揚す我等に樂て食するを賜へとなり求む
 聖神を我等に満て爾が各人の行に應じて報る
 時我等を爾の前に喜われ耻を受ざる者と顯し
 給へ

暮の祈禱文

可樂あまの誦して曰く

我等の神の崇讃めらる今も何時も世々に「ア
 ミン」

可樂なげれば左の如く

父と子と聖神の名に依る「アミン」

主イイススハリストス神の子や爾が至淨の母
 と諸聖人の祈禱に因て我等を憐み給へ「アミン」

我等の神や光榮の爾に歸す光榮は爾に歸す
 天の王慰る者や眞實の神在らざる所なき者満
 たざる所なき者や萬善の寶藏なる者生命を賜
 ふの主や來て我等の中に居り我等を諸の穢よ
 び潔くせよ至善者や我等の靈を救ひ給へ
 聖なる神聖なる勇毅聖なる常生の者や我等を
 憐めよ
 光榮を父と子と聖神に歸す今も何時も世々に
 アミン

至聖三者や我等を憐めよ主や我等の罪を潔く
 せよ主宰や我等の愆を赦るせ聖なる者や臨て
 我等の病を癒と給へ悉く爾の名に因る
 主憐めよ 三次
 光榮の父と子と聖神に歸す今も何時も世々に
 アミン
 天に在す我等の父や願の爾の名の聖とせられ
 爾の國の來り爾の旨は天に行はるゝが如く地
 にも行はれん我が日用の糧を今日我等に與へ

給へ我等に債ある者を我等免すが如く我等の
 債を免じ給へ我等を誘に導かば猶ほ我等を凶
 悪より救ひ給へ
 蓋し國と權能と光榮ハ爾に世々に歸せアミン

讃詞

主や我等を憐めよ我等を憐めよ我等罪人何を
 いふべきを知らざ唯此の祈禱を爾主宰に獻け
 て曰ふ我等と憐めよ
 光榮は父と子と聖神ハ歸す

主や我等を憐めよ我等爾を恃めばなり我等と
 痛く怒る勿れ我等の不法を憶ふ勿れ今も仁慈
 なるゆ因て憐れ垂れ我等と諸の敵より救ひ給
 へ爾ハ我等の神にて我等ハ爾の民なり皆爾の
 手の作れる者よて爾の名と籲ぶゆ因る
 今も何時も世々に「アミン」
 讚美たる生神女や我等の爲めよ憐の門を開き
 爾を恃む者に亡ることなく爾に依て禍を遣が
 るよを得せしめ給へ爾ハハリストスの民の救

ひなればなり
主憐れよ十二次

第一祝文

永遠の神萬物の王我れを是の時に至らしめ給
ひと主や我が今日行と言と思にて犯せし所の
諸の罪を赦し我が賤き靈を躰と心の諸の汚れ
より浄め給へ主や我れに又是の夜の眠を平安
に過して我が傲れし場より起き存命の日に於
て恒に爾の至聖なる名に適ひし事を行ひ我を

攻る有形無形の仇に勝を得せしめよ主や我を
汚す虚き思と邪なる慾より我を救ひ給へ蓋と
國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す今も
何時も世々に「アミ

第二祝文

全能者父の言完全なるイエススハリストスや
爾が多の慈憐に依り何時も我れ爾の僕を離れ
せして常に我が内に止り給へイエスス爾が羊
の善き牧者や我を蛇の計に付せ勿れ「サタナ」の

望に任まぬれ我が内に腐れの核あれをなり主
 拜まる、神聖なる王 イイススハリストスや
 我が寐る時に爾が滅えざるの光即ち爾曾て門
 徒を聖にせし爾の聖神を以て我を護り給へ主
 や我れ爾の當ざる僕にも我が臥牀に於て爾の
 救を賜へよ我が智識を爾が聖福音を悟るの光
 を以て照し靈を爾が十字架に於るの愛を以て
 照し心を爾が言の淨を以て照し我が身を爾が
 無慾の苦を以て照し給へ我が思を爾の謙遜に

て守り時に及て我を起し爾を讚榮せしめ給へ
 蓋し爾は爾の無原の父と至聖の神と共に世々
 に崇め讚めらる「アミン」

第三 祝文

主天の王慰る者眞實の神や恵を垂て我れ爾の
 罪僕(婢)を憐み我當ざる者に今日爾の前に人た
 るを以て又た人に降りて禽獸よりも甚き事を
 犯せしを尽く赦し給へ我が自由と自由ならざ
 る知ると知らざるの罪年少きにより及び悪さ

習ひににより縦ににより及び倦にによりて犯せし事
 若くハ爾の名を以て輕しく誓ひ或ハ思の中に
 之を誹り或ハ人を詬り或ハ怒を含で人を讒言
 と或ハ人を憂へ或ハ怒り或ハ譎り或ハ寢る
 に其の時に依らぎ或ハ貧者の我れに來るを謾
 り或ハ我が兄弟を傷ましめ或ハ人の争を起し
 或ハ人を議し或ハ驕り或ハ誇り或ハ憤り或ハ
 祈禱に立つ時我が思は斯の世の諸事に馳せ或
 ハ淫慾を懷ひ或ハ飲食を慎らば或ハ狂笑を

發し或ハ惡念を懷き或ハ人の美善を見て心を
 惱まし或ハ非禮の言を吐き或ハ我が兄弟の罪
 を嘲りて己が罪の數へ難きを顧みぎ或ハ祈禱
 に怠り或ハ他に惡事を行へども之を忘る蓋し
 我れ悉く之を行ひ又是より多く行へり皆之を
 赦し給へ主宰吾が造物主や我れ爾の倦たる當
 ざる僕(婢)を憐み給へ爾は仁慈にして人を愛ま
 るににより我れを宥め我を釋き我を赦し我れ淫
 慾なる廢れし罪人に平安にて臥し寢ぬ休ひ

且つ爾と父と其の獨生の子の至尊なる名に伏
拜し之を歌頌し之を讚榮せしめ給へ今も何時
も世々に「アミン」

第四祝文

聖大マカリイの原文

大恩を賜ふ常生の王寛仁にして人を愛するの
主や我れ何を以て爾に献げ何を以て爾に報い
ん蓋し爾は我が爾を喜ぶを怠り何の善をも
なさざる靈の悔改と救ひを慮りて我を過去り
し是日の終に至らしめ給へり我れ罪人にして

一も善き行なき者に慈憐を垂れて我が倒れし
靈測られざる罪に汚れたる者を起し給へ我よ
り此の現世の諸の悪念を除き給へ獨罪なき者
や我れ今日爾の前に知ると知らせしと言と行
と思と我が諸の感覺にて犯せし罪を赦し給へ
爾親ら爾の神の權と言ひ尽されぬ仁慈と力に
て我を覆ひ諸の仇の圍より衛り給へ神や浄め
よ我が罪の多きを浄めよ主や我を凶悪者の網
より脱がし我が怨の靈を救ひ光榮を顯はして

來る時爾が顔の光にて我れを照と給へ今も我
 れを罪なく邪なる夢なくして眠らとめ爾の僕(婢)
 の念を亂れざるに守り「サタナ」の謀を盡く我れ
 より遠ざけ我が智識と心の目を明にして死に
 眠るなからとめよ我れに平安の神使我が靈と
 體の守護者及び教導者を遣と我れと仇より免
 がして我が臥牀より起き爾に感謝の祈禱を捧
 げとめ給へ嗚呼主や我れ望と良心れ乏さ爾の
 罪僕(婢)に聆げよ我れに起さて爾の言を學ぶと

賜ひ爾の神使を以て悪魔の悶を遠く我れより
 離と我れに爾の聖なる名を讚揚け及び爾が我
 等罪人の守護ととして與へ給ひと至淨なる生神
 女マリアヤを讚榮讚美せとめ給へ彼が我等の爲
 に捧ぐるの祈禱を納れ給へ蓋と我れは彼れが
 爾の仁慈に倣ひ祈禱とて已はざるを知るイイ
 ススハリストス吾が神や彼れの守護と尊き十
 字架の號と爾の諸聖人に依て我が賤とさ靈を
 護り給へ蓋と爾は聖にして世々に崇讚めらる

「アミン」

第五 禱文

主^{しゅ}吾^{わが}が神^{かみ}や爾^{なんぢ}は仁^{じん}慈^じに^て人^{ひと}を愛^{あい}するに因^より
 我^{わが}が是^{こゝろ}日^ひに於^おて言^{ことば}と行^{わざひ}と思^{おも}ひて犯^{おか}せし事^{こと}を赦^{ゆる}
 し平^{へい}安^{あん}にし^て亂^{みだ}れざる眠^{ねむ}を我^{われ}に賜^{たま}ひ我^{われ}を諸^{もろ}の
 禍^{わざはひ}より覆^{おほ}ひ護^{まも}る守^{しゆ}護^か神^{しん}使^しを遣^{つか}へ給^{たま}へ蓋^{けだ}し爾^{なんぢ}の
 我^{われ}等^らの靈^{たましひ}と體^{からだ}の守^{しゆ}護^か者^{しや}なり我^{われ}等^ら爾^{なんぢ}父^{ちち}と子^こと聖^{せい}
 神^{しん}に光^{くわう}榮^{えい}を歸^{かへ}す今^{いま}も何^い時^つも世^よ々に「アミン」

第六 祝文

主^{しゅ}吾^{わが}が神^{かみ}我^{われ}等^らが信^{しん}を諸^{もろ}の名^なに逾^こで名^なる所^{ところ}の者^{もの}
 や我^{われ}等^ら眠^{ねむ}らんとする者^{もの}に靈^{たましひ}と體^{からだ}の息^{いき}を與^{あた}へ我^{われ}
 等^らを諸^{もろ}の邪^{よこしま}なる夢^{ゆめ}と闇^{くら}冥^{みやみ}の穢^{けが}れより守^{まも}り諸^{もろ}の私^し
 慾^{よく}の動^{うご}くを遏^{とど}め肉^{にく}體^{たい}の情^{じやう}慾^{よく}の燃^もるを滅^けし給^{たま}へ
 我^{われ}等^らに行^なと^ま言^{ことば}に貞^{せい}潔^{けつ}を守^{まも}り德^{とく}を脩^とめて此^{こゝ}の世^よ
 を渡^{わた}り爾^{なんぢ}が約^{やく}せし所^{ところ}の永^{えい}福^{ふく}を失^{うしな}ふなからしめ
 給^{たま}へ蓋^{けだ}し爾^{なんぢ}は世^よ々に崇^{あが}め讃^{ほめ}らる「アミン」

第七 禱文

晝の十二端

主や我を爾が天の福樂より除く勿れ主や我を
 永遠の苦より救ひ給へ主や我が心或は思にて
 言或は行にて犯せし罪を赦し給へ主や我と諸
 の無智と失念と頑固と心の狭きより免れしめ
 給へ主や我と諸の誘ひより救ひ給へ主や悪慾
 に昏まさされし我が心を照し給へ主や我れ人
 とて罪を犯せり爾の寛仁なる神とて我が靈
 の弱さを見我を憐み給へ主や爾の恩寵を垂れ
 我を助けて爾の聖なる名を讚榮せしめ給へ主

イイススハリストスや我れ爾の僕(婢)を生命の
 記録に載せ我れに善き終を賜へよ主吾が神や
 我れ爾の前に一の善をも行はざれども爾の恩
 寵に依て我れに善き始を建てさせ給へ主や我
 が心に爾が恩寵の露を注ぎ給へ天地の主や我
 れ耻べき不淨なる爾の罪僕(婢)を爾の國に於て
 記憶し給へ「アミン」

暮の祈禱文

主や我を痛悔の時に納れ給へ主や我れを棄る

こと勿れ主や我れを禍に陥る勿れ主や我れに
 善き意を與へ給へ主や我れに涙と世を去るの思
 と感動を與へ給へ主や我れに己の罪を痛告する
 の念を與へ給へ主や我れに謙遜と貞潔と順従を
 與へ給へ主や我れに忍耐と寛大と柔和を與へ給
 へ主や萬善の根なる爾を畏るゝの心を我の内
 に植付け給へ主や我れに靈を全し思を全して爾
 を愛し並み萬事に於て爾の旨を行はしめ給へ
 主や我れを或人と悪魔と諸慾と其他凡る不善の

者より覆ひ給へ主や爾は己れが行ふ事の其の
 旨に適ふを知り給へり願は爾の旨に我れ罪人
 にも行それん蓋し爾へ世々よ崇讃らる「アミン」

第八 禱文

主イエススハリストス神の子や爾の至て尊き
 母と爾が無形の神使と爾の預言者前驅授洗と
 福音せし使徒と光明なる凱旋の致命者と克肖
 捧神なる神父と諸聖人の祈禱に依て我を悪魔
 の圍より救ひ給へ嗚呼吾が主造物主や罪人の

死を欲せぎ正に歸りて生を有たんことを欲す
 る者や我れ廢れと當らざる者をも正に歸らせ
 給へ我を吞で生ながら地獄に墮さんとする毒
 蛇の口より我を脱がし給へ嗚乎吾が主我れの
 慰みとなる者我れ廢れと人の爲に朽ち易き身
 を衣たる者や我が廢たるを救て我が靈に慰を
 與へ給へ願くは爾の誠を守り惡しき行を棄て
 爾の福樂を得るの望を我が心に納れ給へ主や
 我れ爾を恃むに依て我れを救ひ給へ

仁慈なる王の仁慈の母至淨にして讚美たる生
 神女マリヤや爾の子我が神の憐を慾に染りた
 る我が靈に注ぎ爾の祈禱により我を善行に導
 きて我れに生命の餘日を玷なく度り爾生神童
 貞女一の淨き讚美ある者に因て天堂を得せし
 め給へ

ハリストスの神使吾が聖なる守護者我が靈と

體と守る者や我が今日犯せし罪を盡く赦し我
 を我が仇の諸の計より救ひ聊も罪を以て神の
 怒を招くことなめ給へ尙我れ罪なる當
 らざる僕(婢)の爲に祈りて我を至聖三者と吾主
 イイススハリストスの母と諸聖人の恵と憐み
 と受くるに堪る者となめ給へ「アミン」

生神女小讀詞

生神女や我等爾の僕(婢)は禍より援けられしを
 以て爾克く勝つ將帥に凱歌と感謝を奉る勝

ぬれぬ權能を有つに依て我等を諸の苦難より
 救ひ爾を歌ふて嫁ならぬ嫁や慶べよと呼さし
 め給へ

至榮なる永貞童女ハリストス神の母や我等の
 祈禱と爾の子我が神に携へ爾に因て我等の靈
 を救はしめ給へ
 神の母や我が恃みを以て盡く爾に負はしむ願
 い我と爾の覆の下に守り給へ
 生神童貞女や我れ罪人爾の祐と爾の衛と求る

者を輕かろんざる勿なれ我が靈こころの爾なんぢを恃たのめばなり祈いのる
我われを憐あはれみ給たまへ

聖せいイサヲシニキイの祝いのち文

我わがが憑たの恃みは父ちち我わがが隱かくれ處がの子こ我わがが併たは暢はの聖せい神しんな
り聖せい三者さんや光くわう榮えいの爾なんぢに歸かへり

次つぎあ

常つねに福さいはひにして全まことく玷きなき生しやう神しん女むすめ吾わがが神かみの母ははな
る爾なんぢを福さいはひなりと稱なづふるの眞まことに當あたれりヘルヲム
より尊たよくセラフムに並ならびなく榮さかえ貞まこと操さばを壞やぶら

して神かみ言ことばを聖せいみも實まことの生しやう神しん女むすめたる爾なんぢを崇あが讃ほむ
光くわう榮えいは父ちちと子こと聖せい神しんに歸かへす今いまも何い時つも世よ々々に

「アミン」

主しゆ憐あはれめま三さん次じ

主しゆイイススハリスキヌ神かみの子こや爾なんぢが至し淨じやうの母はは
と我わがが克こく肖せう捧ほう神しんなる神しん父ちちと諸しよ聖せい人じんの祈いのち禱たうに因より
て我わがれ罪ざい人じんを救きうひ給たまへ

獨ひとり誦よみの祈いのち禱たう

神かみや我わがが自じ由ゆうと自じ由ゆうならざると言ことばと行ことと知しる

と知らざると晝に夜に思と心にて犯せし諸の
 罪を宥め之を釋き之を赦るせ仁慈にして人を
 愛するの主や皆我等に赦ると給へ
 人を愛するの主や我等を怨み我等を惱す者を
 赦ると給へ我等に善を行ふ者に善を施し給へ
 我等の兄弟と親類が救ひに勤るの願ひを聽き
 納れ其れに永生を與へ給へ病を患る者を省み
 て愈るを賜へ海を航る者を導き陸を旅する者
 に伴ひ給へ吾が皇帝を佑け給へ我等に務め我

等を憐む者に罪の赦とを與へ給へ我等當らざ
 る者に代て祈るを頼みと人々を爾の大仁慈に
 依て憐み給へ主や先に眠りと諸父兄弟を記憶
 と彼等を爾が顔の光の輝く所に安んせしめ給
 へ主や擲にせられと我等の兄弟を記憶と其の
 苦を釋き給へ主や爾の聖堂に物を献り勤を爲
 す者を記憶と彼等が救ひに勤るの願を聽納れ
 其れに永生を與へ給へ主や我等の至淨なる女
 宰生神女永貞童女マリヤと爾が諸聖人の祈禱

により我等爾の賤くして罪なる當らざる僕
 (婢)をも記憶し我等の靈を爾が明智の光にて照
 らし我等を爾が戒の路に導き給へ爾の永遠に
 讃揚せらるゝによる「アミン」
 楊に就くとさ己れに十字架を畫して左の祝文
 を誦すべし
 神の興さ其の仇の散る可し彼を惡む者ハ其の
 顔より逃ぐべし烟の消るが如く消ゆ可し蠟の
 火に融くるが如く惡魔ハ神を愛し十字架を畫

する者の前に亡ぶべし慶べや至尊にして生を
 施す主の十字架爾の上に釘うたれて地獄に降り
 惡魔の權力を踏み諸敵を驅るが爲めに爾尊き
 十字架を我等に賜ひし吾主イエスハリスト
 スの權力にて惡魔を逐ふ者や嗚呼至尊にして
 生を施す主の十字架や聖なる女主童貞生神女
 及び諸聖人と共に我を世々に助け給へ「アミン」

或ハ

主や尊くして生を施す爾が十字架の力にて我

を衛り我を諸の悪より扞ぎ給へ

眼に涙か入るるを憐み給へ

主イエススハリストス昔が神や我が靈を爾の

手に渡さ爾我れに福を降し爾我れを憐みて我

に永生を興へ給へ「アミン」

小祈禱書終

25
541

NO.

PATENTED NO. 119016

"F-M"

PAMPHLET BINDERS

are carried in stock in the following sizes

Catalog No.	High	Wide	Thick
851(菊倍)	30. cm. x	22.5cm. x	1cm.
852(四六倍)	26. „ x	18.5 „ x	1 „
853(菊)	22.5 „ x	15. „ x	1 „
854(四六)	18.5 „ x	12.5 „ x	1 „
855(特)	24. „ x	15. „ x	1 „

Special sizes are made to order

LIBRARY SUPPLIES IN ALL KINDS

F. MAMIYA & CO.

OSAKA-TOKYO-FUKUOKA

